

# 三河の昆虫

No. 18 1977年3月

〒448 刈谷市井ヶ谷町  
愛知教育大学昆虫研究室内  
三河昆虫研究会 発行  
第一プリント社 印刷  
☎ ◀56▶ ㊟ 4463

## 西尾市郷西のトンボ

山本 悠紀夫

筆者は矢作川流域のトンボを調査中、たまたま愛知県西尾市郷西にある湿地から、この地方としては記録されていなかった、ベニイトトンボとオオキトンボとの棲息を確認することができたので、この湿地を中心として棲息している他のトンボをも含めて報告しておきたいと思う。

この地域のトンボについては石田昇三、松井一郎(1963)、山本悠紀夫(1973)により現在までに76種が記録されていれが、今回新しくこの郷西の湿地から確認することができた2種を含めると78種に増加することとなった。また、この2種の追加種はいずれも低湿地に棲息する種類であるため、この地域から今までに記録された低湿地棲の種類と合わせると、この地域のトンボ相のなかで空白に近い状態となっていた低湿地棲の種類が一応揃うこととなり、このよな結果からしてかつてはこの矢作川下流域にも低湿地棲の種類が普遍的に分布していた時代があったことが十分に推測されるのである。

この郷西にある湿地は矢作川のかつての流路あとにできた河跡沼が湿地化したもので、現在のところその一部は水田化されてはいるものの、いまだ2ヘクタール程の部分は水質も矢作川の伏流水によってきわめて清澄で、クロモやヒシモドキ等の水草がよく繁茂し、湿地の周辺近くまで樹木で覆われた部分が多く、河跡沼の成立当時の環境がそのまま現在に残されているところである。

現在この湿地に棲息しているトンボのなかには他の地域ではすでに絶滅してしまったような

種類が多く見られるのも、このような古い環境が残されているところに基因するものと思われる。

### 1. キイトトンボ

*Ceriagrion melanurum* Selys

3♂, 1♀ Sept. 15 '73

湿地の全域にわたって広く棲息しているが個体数はあまり多くない。

### 2. ベニイトトンボ

*Ceriagrion nipponicum* Asahina

7♂, 3♀ Sept. 15 '73

この湿地内における個体数は前種よりも多く、水域内の棲息密度はきわめて高いと推察される。しかし、本種は矢作川流域では目下のところこの湿地以外からは発見されておらない遺存的種類となっているが、これはこの地域の農耕が早くより発達したことで、水田化の障壁になるような巨大な湿地や沼がなかったことによるもので、この地域の湿地や沼が消滅する以前にはかなり普遍的に棲息していたものと思われる。

### 3. アジアイトトンボ

*Ischnura asiatica* Brauer

2♂, 2♀ May 21 '73, 2♂, 2♀ Sept 15 '73

各地に最も普遍的に分布している種類であるが、この湿地では局部的に少数ながら散見される。しかし本種は棲息環境の汚濁が進行してい

く場合、減少していく他の種類とは逆に個体数が一時期爆発的に増加することがあることからして、もしこの湿地の環境が破壊されることともなれば個体数は現在よりも増加していくことになるのではないかと思われる。

現在本種が各地に普遍的に分布している背景にはこのような本種の特性と、本種の棲息に適した環境が各地に造り出されていくためであって、人間の影響を受けることのなかった古環境のなかではおそらく本種はこの湿地の場合のように、水域の限定された部分に少数ながら棲息していたのではないかと思われる。

#### 4. アオモンイトトンボ

*Ischnura senegalensis* Rambur

1♂, 1♀ May 20 '73, 2♂, 1♀  
Sept 15 '73

この湿地では前種より多く見られるが、この矢作川流域としては局在的で筆者は岡崎市の荘司田池以外からは現在のところその棲息を確認しておらない。

しかし本種は低湿度に棲息する種類のなかでは最も環境に対する適応力を持っているので、今後の調査によってはこの地域における新しい棲息地の見い出される可能性は最も高いのではないかと思われる。

#### 5. セスジイトトンボ

*Cercion hieroglyphicum* Brauer

3♂, 2♀ May 20 '73, 1♂ Sept  
15 '73

個体数は多くはないが湿地の全域に見られる。

#### 6. オオイトトンボ

*Cercion sieboldii* Selys

7♂, 3♀ May 20 '73, 3♂, 3♀  
Sept. 15 '73

全域に見られるが特 樹木が水辺近くまで茂っているような部分に多く棲息している傾向が見られる。

#### 7. モノサシトンボ

*Copera annulata* Selys

2♂, 1♀ May 20 '73

前種同様樹木の多いところに見られるが、個体数はあまり多くない。

#### 8. オオアオイトトンボ

*Lestes temporalis* Selys

1♂ Sept 15 '73

水辺まで樹木が茂っているような部分に見られるが個体数はあまり多くない。

#### 9. ギンヤンマ

*Anax parthenope julius* Brauer

1♂ Sept. 15 '73

この湿地で羽化した個体が他所から飛来した個体かは判らないが、水辺を徘徊する個体数はかなり多い。

#### 10. ハラビロトンボ

*Lyriothemis pachygastra* Selys

5♂, 1♀ May 20 '73

湿地の全域から水田部分にかけて多数の個体が見受けられる。

#### 11. シオカラトンボ

*Orthetrum albistylum speciosum* Uhler

2♂, 1♀ May 20 '73, 1♂, 1♀ Sept.  
15 '73

湿地内よりも水田部分に多く見られる。

#### 12. シオヤトンボ

*Orthetrum japonicum japonicum* Uhler

1♀ Nov. 5 '72, 1♂ May 20 '73

この湿地では散発的に見られる程度であり多い種類ではない。

筆者は冬もま近い11月上旬にテネラルな1♀を採集したことがあるが、本種のこのような季節はずれの羽化例はすでに安藤尚(1954)によっても1例が報告されていることからして、自然界においてはかなりの瀬度でおきているのかも知れない。

本種の場合羽化時期が4月上旬から同月の下旬にかけての早春にあたるため、幼虫の羽化準備はとうぜん前年の秋には完了しているはずで、

個体によっては越冬をすることなくそのまま羽化行動に移る場合もありうるのではないかと思われる。



1. 西尾市郷西にある湿地 (Nov. 5 '72)
2. 季節はずれに羽化したテネラルなシオヤトンボ♀ (Nov. 5 '72)
3. 白い水鳥の羽に好んで静止するキトンボ♂ (Nov. 5 '72)

13. ベッコウトンボ

*Libellula angelina* Selys

1♂ May 20 '78

この地域の本種については従来確実な棲息地として六ツ美町があげられていたが、今回新たに本種の棲息地としてこの湿地を加えることができるようになった。

この湿地における本種は全域としては散見される程度であるが、北岸には集中的に見られ、局部的ではあるが多数の個体を確認することが

できた。

14. ショウジョウトンボ

*Crocothemis servilia* Drury

2♂, 1♀ May 20 '78

全域にわたって多数の個体が見られる。

15. コフキトンボ

*Doielia phaon* Selys

全域に見られるが水深のある部分に多く集まって棲息している。

16. アキアカネ

*Sympetrum frequens* Selys

8♂, 2♀ Nov. 5 '72

水田部分にも見られ個体数のきわめて多い種類である。

17. キトンボ

*Sympetrum croceolum* Selys

2♂, 1♀ Nov. 5 '72

湿地の中央部には比較的多く見られるが、全域としてはあまり多い種類ではない。

18. オオキトンボ

*Sympetrum un-orne* Selys

1♂ Sept. 15 '73

この湿地では北岸で散見される程度で個体数は多くないようである。

本種もベニイトトンボと同様矢作川流域においては、この湿地以外からは棲息を確認されておらない未記録種であると同時に、かつての矢作川下流域に分布していたトンボの遺存種でもあるので、ともに貴重な存在として調査の対象としていきたい。

19. ウスバキトンボ

*Pantala flavescens* Fabricius

2♂ Sept. 15 '73

水田も含めた広い地域に多数の個体が見受けられる。

# 私 と 昆 虫

村 松 正 浩

私が昆虫に興味を持ち始めたのは、五・六才頃の事です。兄が当時昆虫好きで父と一緒に西尾方面の山へ、夜間採集によく出掛けていました。幼なかった私は、いつもだだをこねては連れて行ってもらいました。そんな風でしたから私の役目は胴乱持ちか、照明係で父は私たちのお抱え運転手といったところでした。時にはぼんやりしていて、折角カゴに入れた虫を逃がしてしまい、兄にしかられたこともありました。そんな時の兄の悔やしそうな顔といったら……私は首が縮まるような思いでした。

その頃の一番の思い出は、何かの都合で父と二人だけでカブト虫を採りに連れて行ってもらったことでした。忘れもいたしません。その晩は風も月もなく、むし暑い日でした。「今日は危なく無い所へ行こう。」と言って水銀灯の設置場所を狙って車を飛ばしました。矢作古川の近くに、銀色のタンクがあって、その上に新しい水銀灯が一際まぶしく輝く所がありました。ここへ近くの山から、この光を求めて飛んで来るカブト虫を採るためです。そこで面白いことに気がついた。水銀灯には無数の雲霞やツマグロヨコイなどが飛んで来ます。これを捕食しようとしてカエルたちが集まっており、又それを狙う蛇がいるではありませんか。私は長ぐつをはいて用心深く、蛍光灯の下で落ちて来るカブト虫を探しました。この時の様子は、生物の世界の非情な仕組みを見る思いでした。

小学校へ入ってから、私は兄と一緒に昆虫採集を楽しむようになりましたが、始めの頃は、どのようにして虫を飼育し産卵させふ化させるかに興味を持って縁側にガラスケースを並べ、暇さえあれば昆虫の世話をしておりました。この頃は大きな甲虫類が室のように思えました。志賀高原で花カミキリを採った時、その種類の多いのに驚きました。図鑑で調べたところ、有りふれたものばかりで、聊か、がっかりしました。以来小さな甲虫に関心が移り、シーズン毎



に、カミキリを求めて段戸山へ出掛けます。

私は今、碧南地区の甲虫の生態や分布について機会を見つけては調べています。都市化と共に何処でも昆虫が減少しています。碧南でも、カブト虫のような大型の甲虫は随分少なくなりました。新しく出来た臨海工業地帯に、どんな虫が住み始めるか、公害問題と併せて、いろいろと調べていきたいと思ひます。

下記の方から本会に寄付を頂きました。  
心から御礼申し上げます。

鈴木	友之様	5,000円
鳥居	彰様	1,000円
長谷川	宏様	3,000円
倉橋	宏充様	500円